

6. 結論

今回の調査では、楠広場全体で3分の1以上の枯死率が示され、クロマツなどの特定の樹種の高い枯死率も明らかとなった。その要因として土壌環境が考えられ調査を行ったところ、土壌は季節や天候によって様々な特徴を示し、樹木の生長量に影響を与えていることが示唆された。また、物理環境同士でも複合的に影響していることが考えられ、臨海部埋立地に生育する樹木に対して大きく影響を与えている要因を引き続き調査していく必要がある。

また、臨海部埋立地の緑地造成の指針を定めるにあたって、緑地全体における樹木と物理環境との関連性の検討だけでなく、今後適切な樹種の選定を行うためにそれぞれの樹種に対する評価も必要となる。それに加えて、埋立地に生育する樹木が健全な状態を長期間保つための管理方法についても模索していく必要がある。